

# ミラノ2K 塗装仕様書

## マツダ 46G(マシーングレープレミアムメタリック) 【ブロック塗装】

初版2016.08

№	工程	作業内容	ポイント								
1	プラサフ塗装 	新品 電着パーツの場合 ◆ EDシーラー ブラック塗装  補修部に塗装する場合 適応プラサフ ◆ ウルトラサフFineマルチグレー ◆ ウルトラサフCマルチグレー	◆ EDシーラー塗装後、ノサン仕様で塗装する場合は、23℃で3時間以内に塗装すること。								
2	下地処理 	エアー工具 DRY P600 手研ぎ DRY P800	◆ プラサフの研磨はP600～800ペーパーで丁寧に研磨すること。 ◆ プラサフ研磨処理の際に素地が露出した場合には金属素地露出部に再度プラサフを塗装すること。 ◆ EDシーラーを塗装した場合は、規定時間内に塗装する場合に限り足付けは不要。								
3	脱脂作業 	溶剤系脱脂剤 ワックスオフライト	◆ ワックスオフライトで油分・粉塵等を綺麗に除去する。								
4	調合 	◆ 第1ベース(カラーベース) 重量比 ミラノ2K カラーベース 100 ミラノ2K 各種リアクター 100  ◆ 第2ベース(メタリックベース) 重量比 ミラノ2K カラーベース 100 ミラノ2K 各種リアクター 200	◆ 第1ベース、第2ベースの調色は、当社調色配合を参考に微調色を行う。  ※ 本塗色はメタリック粒子を水平に配向させる必要があるため、第2ベースのシンナー希釈が多くなります。								
5	第1ベース塗装 (カラーベース) 	◆ 第1ベース塗装 塗装回数 2～3回 1回目 ウェットコート 50～70%隠ぺい 2回目以降 ウェットコート ～100%隠ぺい  ※ スプレーガン設定(イサムパックガン PAC-8の場合) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>塗出量(目盛)</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>エア圧(MPa)</td> <td>0.1</td> <td>0.14</td> <td>0.18</td> </tr> </table>	塗出量(目盛)	5	7	9	エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18	◆ 塗装前にエアブローとタックロスでホコリ等を除去すること。 ◆ 隠蔽するまで塗り重ねを行うこと。 ◆ コート間はツヤが引けるまでエアブロー等を行うこと。 ※ 出来るだけ塗装肌を平滑にしてください
塗出量(目盛)	5	7	9								
エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18								
6	第2ベース塗装 (メタリックベース) 	◆ 第2ベース塗装 塗装回数 2～3回 1回目 ミディアムコート 50～70%着色 2回目以降 ミディアムコート ～100%着色  ※ スプレーガン設定(イサムパックガン PAC-8の場合) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>塗出量(目盛)</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>エア圧(MPa)</td> <td>0.1</td> <td>0.14</td> <td>0.18</td> </tr> </table>	塗出量(目盛)	5	7	9	エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18	◆ コート間は艶が引けるまでエアブロー等を行う。 ◆ メタリック感を塗板と確認しながら塗装回数を調整する。
塗出量(目盛)	5	7	9								
エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18								
7	セッティング 	23℃×10分以上									
8	クリヤー塗装 	クリヤー塗装 塗装回数:各クリヤー仕様参照  各種クリヤーの塗装仕様書参照	◆ 推奨クリヤー アクセル201ヒートナスクリヤー、アクセル301ルナクリヤー ※ 調合は各クリヤーの仕様によります。 ※ 本塗色は少しでもクリヤー戻しが発生すると、色相が大きく変化します。(正面が暗く、スキャンが明るくなる) いきなり艶を出すよう塗装せず、ライトコートの後、充分セッティングを取り、艶出し塗装を行うことがポイントです。								
9	乾燥 	各クリヤーの乾燥条件参照									
10	ホリッシング 	各種ホリッシングシステム参照	◆ 推奨システム MIRKA ホリッシングシステム 水性コンパウンドを使用したホリッシングシステム								

# ミラノ2K 塗装仕様書

## マツダ 46G(マシーングレープレミアムメトリック) 【ボカシ塗装】

初版2016.08

No	工程	作業内容	ポイント								
1	プラサフ塗装	適応プラサフ ◆ ウルトラサフFineマルチグレー ◆ ウルトラサフCマルチグレー	◆ 各種サーフェーサー塗装仕様に準じて塗装すること。								
2	下地処理	プラサフ部 DRY P600~800 旧塗膜部 DRY P1500~2000 クリヤーホカシ部 DRY P3000~4000	◆ プラサフ研磨はP600~800、旧塗膜部はP1500~20000、クリヤーホカシ部はP3000~4000で丁寧に研磨すること。 ◆ 金属素地が露出した場合は、プラサフを塗装すること。								
3	脱脂作業	溶剤系脱脂剤 ワックスオフライト	◆ ワックスオフライトで油分・粉塵等を綺麗に除去する。								
4	調合	◆ 第1ベース(カラーベース) 重量比 ミラノ2K カラーベース 100 ミラノ2K 各種リアクター 100 ◆ 第2ベース(メトリックベース) 重量比 ミラノ2K カラーベース 100 ミラノ2K 各種リアクター 200 ◆ アンダークリヤー 重量比 ミラノ2K アンダーコンディショナー 100 ミラノ2K 各種リアクター 100	◆ 第1ベース、第2ベースの調色は、当社調色配合を参考に微調色を行う。 ※ 本塗色はメトリック粒子を水平に配向させる必要があるため、第2ベースのシンナー希釈が多くなります。								
5	ホカシ剤塗装	ホカシ際部にアンダークリヤーを塗装する	◆ 塗装前にエアブローとタックロスでホコリ等を除去すること。								
6	第1ベース塗装 (カラーベース)	◆ 第1ベース塗装 塗装回数 2~3回 1回目 ミディアムウェットコート 50~70%隠ぺい 2回目以降 ミディアムウェットコート ~100%隠ぺい ※ スプレーガン設定(イサムパッカン PAC-8の場合) <table border="1"> <tr> <td>塗出量(目盛)</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>エア圧(MPa)</td> <td>0.1</td> <td>0.14</td> <td>0.18</td> </tr> </table>	塗出量(目盛)	5	7	9	エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18	◆ コート間は艶が引けるまでエアブロー等を行う。 ◆ 1回目は補修部からホカシ際に向かって塗広げること。 ◆ 2回目は1回目よりも外側へ塗り広げること(3回目以降は同様) ※ 極力少ない塗装回数で隠蔽し、肌をなるべく平滑に塗装する
塗出量(目盛)	5	7	9								
エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18								
7	ニコシ塗装(必要時)	◆ 第1ベース塗装でカップに残った塗料に第2ベースを追加する ◆ ニコシ塗装 塗装回数 1回	◆ 第1ベースの残り20に対し第2ベースを80追加する。 ◆ ニコシ塗装は必要に応じて、ホカシ際をなじませる様に塗装すること。								
8	第2ベース塗装 (メトリックベース)	◆ 第2ベース塗装 塗装回数 2~3回 1回目 ミディアムコート 50~70%着色 2回目以降 ミディアムコート ~100%着色 ※ スプレーガン設定(イサムパッカン PAC-8の場合) <table border="1"> <tr> <td>塗出量(目盛)</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>エア圧(MPa)</td> <td>0.1</td> <td>0.14</td> <td>0.18</td> </tr> </table>	塗出量(目盛)	5	7	9	エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18	◆ コート間は艶が引けるまでエアブロー等を行う。 ◆ 1回目は補修部からホカシ際に向かって塗り広げること。 ◆ 2回目は1回目よりも外側へ塗り広げること(3回目以降は同様) ※ ボカシ剤が乾いている時は追加で塗装してください
塗出量(目盛)	5	7	9								
エア圧(MPa)	0.1	0.14	0.18								
9	セッティング	23°Cx10分以上									
8	クリヤー塗装	クリヤー塗装 塗装回数:各クリヤー仕様参照 各種クリヤーの塗装仕様書参照	◆ 推奨クリヤー アクセル201ビーンズクリヤー、アクセル301ルナクリヤー ※ 調合は各クリヤーの仕様によります。 ※ 本塗色は少しでもクリヤー戻しが発生すると、色相が大きく変化します。(正面が暗く、スカシが明るくなる) いきなり艶を出すよう塗装せず、ライトコートの後、充分セッティングを取り、艶出し塗装を行うことがポイントです。								
11	乾燥	各クリヤーの乾燥条件参照									
12	ホリッシング	各種ホリッシングシステム参照	◆ 推奨システム MIRKA ホリッシングシステム 水性コンパウンドを使用したホリッシングシステム								